



## タブレット端末 を活用した研修講座

### 初任者・新規採用者研修共通 「コミュニケーション」講座 a~d (総合教育センター)

講座の前半に、コミュニケーションの演習を行い、その様子をお互いにタブレット端末で録画しています。

講義を受けた後で自分の演習の様子を見直すことで、自らの姿を客観的に見ることができます。

① 演習時に録画



② 講義を受けて振り返り



●グループに2台ずつ 計40台使用

## 「使ってみたい」から「できる」へ

総合教育センターでは、ICT活用をねらいとして実施している講座をはじめ、様々な研修講座にタブレット端末を取り入れて実施しています。今回は、タブレット端末のカメラ機能を活用した講座を紹介します。

### 京のひと・まちづくり講座 I・II

(山城郷土資料館・丹後郷土資料館)

資料館の見学時に、興味・関心のある展示品等を撮影し、研究協議でその写真をもとに交流しています。(特別の許可を得て撮影しています。)

着眼点の違いや共通点から、お互いの思考を可視化でき、協議が深まります。

① 見学時に撮影



② 研究協議の導入で交流



●1人1台ずつ 計20台使用

#### (感想)

練習の様子を撮影し、映像で振り返ることで自分自身の聴く姿勢の様子を知ることができた。課題が分析できたので、明日から聴く姿勢を変えていきたいと思った。

#### (感想)

写真をとって交流することで、人それぞれ興味のあるところが違い、自分が興味なかったことも新たな視点で聞くことができ、学びの広がり、深まりがあったと思った。

このようにセンター講座ではタブレット端末を活用して効果的な研修を実施していますが、タブレット端末でなくても、カメラやビデオカメラを使えば、授業等でも同様の効果を得られるのではないのでしょうか。

# 学級全員の学力を伸ばそう！

## ユニバーサルデザイン授業

連載  
第3回

発達障害のある子どもたちは、その特性に応じた適切な指導・支援をすることで力を発揮することができます。授業の中に特別支援教育の視点を入れ、発達障害のある子どもたちにとってわかりやすい授業を作ることで、それが結果的に全員にとってわかりやすい授業となり、学級全体の学力の充実につながっていきます。

今回の連載3回目は、**授業改善のポイント**について紹介します。

## 授業改善のポイントを知ろう

全員にとってわかりやすい授業づくりのポイントとして「授業への参加」「内容の理解」「指導の基礎」などが挙げられます(図)。

また、これらの工夫を取り入れるとともに、常に授業が発達障害のある子どもたちも含めた全員にとってわかりやすいものとなっているかをチェックして、授業改善をしていく必要があります。



### 授業への参加

- 授業の始まりと終わりが明確
- 教具を片付ける場所や片付け方を視覚的に提示
- 座席の配置、グループ編成の工夫

### 内容の理解

- 授業のねらいが明確
- 何をしたらいいのかが伝わる  
発問・指示
- 授業の流れや手がかりを視覚的に提示
- ペアやグループ、話し合い等、様々な活動を導入

### 指導の基礎

- 短くはっきり明確な指示
- 集中させてからの指示
- 子どもに合わせた声のトーン、教師の立ち位置
- 指示した内容の視覚的な提示

全員にとってわかりやすい授業になっているかチェック

改善へ!

●これらの授業づくりのポイントを押さえた指導が、**学校全体**で取り組まれることが重要です。

図 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり



手作り  
府民講座  
開催!!

### 学びと体験のコーナーがいっぱい

日時：平成27年12月19日(土) 午後1時～同4時

場所：ふしみ会場(総合教育センター)

あやべ会場(総合教育センター北部研修所)

対象：京都府内の小学生及び特別支援学校小学部の児童と保護者

申込方法等、詳しくは ITEC にて紹介 ITEC>トピックス